

令和5年度新宿区生涯学習フェスティバル



作品目録



- ◆日時 令和5年10月4日(水) ~ 10月8日(日)
午前10時~午後5時(最終日は午後2時まで)
- ◆会場 新宿文化センター 地下1階 展示室
- ◆主催 公益財団法人新宿未来創造財団
- ◆共催 新宿区

作品一覧（展示順）

	【題名】		【種類】	【氏名】	【活動団体名:活動場所】
1	柳橋		水彩画	福江一郎	火曜水彩画
2	自然の中で		アクリル画	塩谷剛彦	青年教室
3	甘い香り		アクリル画	遠藤貴志	青年教室
4	黄色のバラ		水彩画	福江順子	火曜水彩画
5	ペコちゃんのお宝鑑定をお願いします		水彩画	光中博美	絢の会
6	山のある風景	銅賞	水彩画	上野 猛	
7	沼へ続く道	奨励賞	油彩画	竹内潤子	早稲田アート
8	サンチャゴ巡礼の道ロカマドール城跡		油彩画	菅井 修	
9	唐三彩陶器(馬)		水彩画	藤本博史	
10	求愛		水彩画	中川知加子	
11	雨あがり		水彩画	斎藤ゆき	アートフレンド
12	初夏の小石川植物園		水彩画	藤井茂徳	大久保センター きさらぎ会
13	てんごくのもの	区長賞	水彩画	宮田 都	
14	わたしの細胞	奨励賞	パステル画	のもとゆかり	
15	夏の終わり	銅賞	油彩画	原口 勉	アートフレンド
16	上野の銀杏		水彩画	羽柴利英子	早稲田アート
17	校舎の四季	銀賞	油彩画	加瀬誠一	
18	ルピナスの香		水彩画	屋宮早苗	絢の会
19	まぼろしの街		水彩画	藤原悠気	おえかきぼけっと
20	トーモロコシ		水彩画	花沢美代子	絢の会
21	旅の思い出	銀賞	版画	實松元枝	
22	四谷保健センター		水彩画	竹中 弘	
23	夏		水彩画	小川英子	絢の会
24	虹のパレード		水彩画	藤原愛佳	おえかきぼけっと
25	田中一村美術館にて	奨励賞	鉛筆・パステル	中川富子	
26	孫生え(ひこばえ)	奨励賞	水彩色鉛筆	友部美奈子	
27	遠い夏の夢	銅賞	油彩画	郭 天月	
28	日本の風景 田植え		水彩画	谷島京子	
29	私の心のぐるぐるの中に入ってみた	奨励賞	水彩画	佐藤美夢	おえかきぼけっと
30	哲学堂公園菖蒲池		水彩画	阿部毅一郎	
31	THE GARDEN	金賞	色鉛筆	大谷みち江	アートフレンド
32	クリスマス	奨励賞	水彩画	佐久間 誠	火曜水彩画
33	正ちゃん帽		油彩画	高崎ヒサ子	早稲田アート
34	ベレー帽の女性		水彩画	竹内元章	早稲田アート

35	コンテンポラリー		水彩画	大井邦江	
36	くだもの生活		アクリル画	石丸 健	青年教室
37	夕刻の都会にて	奨励賞	アクリル画	野原 勉	青年教室
38	華やかな…		アクリル画	坂本毅史	青年教室
39	ひとかごの夏のくだもの	金賞	日本画	呉 聖恵	
40	新潟の空		水彩画	田邊順子	アートフレンド
41	日比谷公園		水彩画	池田 至	キサラギ会
42	梨		油彩画	中嶋 修	
43	振り返れば古希		油彩画	友部政義	
44	とびうお	奨励賞	水彩画	森 優子	早稲田アート
45	楽しい時間	銅賞	アクリル画	森 敦樹	青年教室
46	花 マーガレット	奨励賞	パステル画	山崎恵美子	
47	クリスマスを待つ家	銀賞	日本画	山賀美登子	
48	Vipsania2023	奨励賞	油彩、アクリル、パステル	藤川裕子	

～ 区 長 賞 総 評 ～

小さめの水彩作品ですが、審査員一同、すぐに目を奪われました。「門」がとても存在感たっぷりに立っていて、黒い影のようなものが手前に描かれ、とても謎めいた雰囲気をかもしだしています。画面のそこかしこにある乾いた線は、どうやって描いたのか謎ですが、門のまわりに降る雨のような、世界をゆさぶる振動のような、作品になくてはならない存在感をもっています。

見る人によって全く異なる情景が浮かんできそうな、さまざまな感覚や解釈を呼び起こす不思議な魅力を持った作品だと思います。

～ 講 評 ～

(審査員50音順)

審査員としてみなさんの作品にふれるのも今年で最後。ちょっぴり寂しさを覚えつつも、力作の数々にふれる喜びを感じながら、ひとつひとつじっくりと拝見しました。今回は水彩画が出品作全体の半数を占めていて、審査会場は今までよりすっきりした印象でしたが、それだけに筆遣いや色の重ね方など、描き手の細かな工夫に自然と目がいきましました。

区長賞の《てんごくのもの》は不思議な魅力にあふれた作品です。一体どんな描きかたをしたんだろう？と首をひねってしまうような線と塗りが随所にみられるのですが、それが実に巧みに構成され、完成度の高い画面を作りあげています。鮮やかな色彩と謎めいた黒、そして背景の白との対比も秀逸で、作者の思い描く「てんごく」のありように、しばし妄想をふくらませてしまいました。

金賞の《THE GARDEN》は、近景から遠景へと視線をいぎなう花々の連なりが見事で、色彩感覚の鋭さと構成力の高さがうかがえます。同じく金賞の《ひとかごの夏のくだもの》は、籠からあふれんばかりの果物たちの豊かな表情に、思わず顔がほころんでしまいます。背景の群青も主たるモチーフをぐっと引き立てていますね。

銀賞の《旅の思い出》は今回唯一の版画作品で、落ち着いた色彩のなかに浮き立つ生々しい葉っぱのシルエットが、作者の思い出へと観る者を誘います。シュルレアリスムの画家たちの作品を思わせるところもあり、個人的に強く心惹かれました。奨励賞の《沼へ続く道》もとても気になった作品で、湿り気のある道を進む記憶を追体験してしまいました。

絵画制作は、終わりのない旅のようなものです。時に悩みさまようこともあるかと思いますが、そんな経験も描き手のわざと心をより強く、しなやかにしてくれます。みなさんにはぜひこれからも、さまざまな出会いや発見を大事にしながら、実り多い旅を続けていただきたいと思います。3年間ありがとうございました。

福沢一郎記念館 非常勤嘱託(学芸員)
伊藤 佳之

昨年に引き続き、熱のこもった多くの作品に出合える貴重な時間となりました。あらためてコロナ禍を経てなお、皆さんの制作に向き合う姿勢に身が引き締まる思いです。今年は水彩といった紙に描いた軽やかなながらも力強い作品が多く、夏の猛暑の疲れも吹き飛んでいきました。

区長賞の『てんごくのもの』は見れば見るほど新たな景色が浮かんでくる不思議な作品でした。一見無造作に置かれた絵具にも見えますが、制作中の画面との駆け引きや息遣いが感じられ、爽やかさと不穏さを同居させる色彩の豊かさに強く惹きつけられました。制作過程の謎も興味深く印象に残りました。「ひとかごの夏のくだもの」は青一色の背景に果物のみずみずしさがのびのびと描かれ、食感や味覚まで刺激されます。夏に涼をとりながら、ずっと目で味わっていたい作品です。

『THE GARDEN』は色鉛筆とは思えない強さがあり、花の描き分けも去ることながら奥の建物まで丁寧に描かれており、春の到来の喜びに満ちた明るい画面に誘い込まれそうです。「旅の思い出」の巧みな構図に、旅先で拾った葉っぱでしょうか？葉っぱの実在の痕跡に、版と記憶の層に新鮮さをいつまでもとどめておこうとする意志を感じました。「クリスマスを待つ家」のイチョウのあいだからサンタを覗いているユーモラスな構図と抑えた色調での赤と緑の対比がとても鮮やかでした。「校舎の四季」は魅力ある破綻として好感を持ちました。この植物が繁茂する筆触で額縁へと展開しない大作も見たいなど。「楽しい時間」の反転した時計の文字盤は鏡の中のキャラクターでしょうか？ルイス・キャロルに通底しそうな世界観に揺さぶられました。

他にもふれたい作品がたくさんあるのですが、紙幅の都合上ご容赦ください。皆さんの日々の生活のなかで息づく作品が、こうして集まることの大切さをひしひしと感じております。来年も制作の困難や喜びと発見に作品を通して出会えることを願っております。

大槻 英世（油絵・アクリル画家）

全体を見まわして、爽やかな印象があり、静かな涼やかな会場になりました。力強いタッチの作品からは息づかいが、繊細な筆致の作品からは、丁寧な観察眼を見て取れました。

いくつかコメントを書きます。『てんごくのもの』色の重なりに、目が吸い込まれ行くようでした。余白の白には圧倒的な光、あるいは白い雨に包まれるような気持ちになりました。『ひとかごの夏のくだもの』力強い作風が、目に飛び込んで来ました。背景の植物に、少し明るい色があると、さらに良いかなと思います。『花 マーガレット』清潔感のある作品と思いました。モチーフへの優しさを感じました。『Vipsania2023』的確な筆使いで、犬の笑顔がよいと思いました。明るい気持ちをもたらしました。『田中一村美術館にて』不思議な存在感のある作品でした。作者の、孤高の画家への畏怖の念を思います。『遠い夏の夢』建物と樹木を観ながら、建っている、根を張っている地を想いました。日差しと陰に、時を感じる作品でした。『新潟の空』雲(工場の煙?)の表現に目がとまりました。空の広さを感じました。

日本画家・絵画講師
近藤 鋼一郎

今年もこの絵画展の審査に携わり、多くの作品に出合うことができ大変嬉しく思います。今回は風景や静物を描いた水彩画が半数以上を占めていたこともあり、全体として軽やかでさわやかな絵画が多いという印象を受けました。一方で、独特な重厚な静物画やポップさのある作品も輝きを放っていて、それぞれの方が自分自身の表現を求めて、心を籠めて作品を制作していることに感銘を受けました。

区長賞を受賞した『てんごくのもの』は「門」、そして周囲のかすれた筆致や円によって巧みに構成されていて、まるでモダニズムの抽象画のような趣があります。「天国」という言葉から通常連想されるイメージとは一見異なるように思われる点も興味を惹かれます。まるで人物の後姿や、降り注ぐような雨、水滴を思わせる要素もあり、背景にどんなストーリーがあるのだろうと想像しながら、いつまでも見ていたくなるような作品です。

金賞の『THE GARDEN』は色鉛筆を使って、さまざまな花々が咲き乱れる様子をさわやかな色彩とタッチで表した作品です。花びら一枚一枚まで丁寧に描かれており、まるでクチナシなど花の香りが漂ってくるように思われました。この作品と同様に、画材や技法の特徴を生かした作品は他にも見られ、今回唯一の版画作品である『旅の思い出』は、中央に大きく葉の形が葉脈まではっきりと転写されています。立山連峰を最上段とする横ストライプを背景に、まるでスポットライトを浴びるように葉が配置され、渋いモチーフながら、全体にポップな雰囲気を持っている点に面白みを感じました。同じく銀賞の『クリスマスを待つ家』は、後ろ向きのサンタクロースが壁を登って煙突に入ろうとしている場面なのでしょうか。とてもかわいらしく、コミカルでもありますが、クリスマスというテーマを日本画の手法と銀杏の葉と組み合わせている点に大変興味を惹かれました。

他にもたくさんの素敵な作品が応募されていて、審査会は大変楽しいものでした。これからもオリジナルティあふれる絵画を制作していただければ嬉しいです。

公益財団法人SOMPO美術財団
SOMPO美術館 学芸員
武笠 由以子